

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成30年2月20日発行

No.125



(城山から望む中央アルプス 撮影者:平野かほり)

「雪の内に 春は来にけり うぐひすの こぼれる涙 今や溶くらむ」

(二条后)

凍った涙が溶け、花々の咲く春ももう間もなくです。

楽しみですね。

小笠原 美雪

第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会参加日記

妻籠宿案内人の会会長 原 修 己

去る、11月17日から3日間全国町並みゼミが名古屋市の有松で開催され初めて出席する機会を得た。全国各地から600人程の関係者が一堂に会し、熱のこもった討議や町並みの見学会等があった。初日はJR東海の須田相談役の基調講演に始まり各地区からの報告、ブロック別会議等、盛りたくさんの内容でした。参加した第一ブロックでは、九州の八女と東京のNPOの発表がありました。JR東海の須田相談役からは「観光は町づくりの原動力」・「町づくりは観光の原動力」であり、観光と町づくりは相互に補完しつつ発展していくものだと言説された。その後、八女福島町並み保存会、NPO法人たいとう歴史研究会の空き家の有効活用についての実践発表があり、その取り組みについて活発な意見交換が行われた。こちらでも旗振り役の苦勞がそこかしこに感じられ、住民との係わりの中でいかに活動を理解してもらうかが大切であることを実感しました。

2日目は、生憎の雨の中、町並み見学となりました。有松は、有松絞りで盛えた当時の立派な建物も多数残されており、きれいに整備された町並みにびっくりしました。昭和53年に第1回町並みゼミが有松で開催されてから40年、昨年重伝建の指定を受けることができましたが、やはりここでも、関係の方々の苦勞が偲ばれます。有松絞りの開祖といわれている中村竹田邸は、所有者と業者との売買契約が済んでしまった後、市の仲介により買い戻したとの事。現在では、重みのある建物がデイサービスの施設として生かされていました。空き家対策の有効活用の一つと思いました。

今回、町並みゼミに初めて参加させて頂きいろいろの意見を拝聴しましたが、空き家対策、後継者の育成等同じ悩みを抱えています。町並み保存は、一人では何もできません。住民の皆さんとの意思疎通を図りながら、行政とも連携して将来に渡って価値ある町並みを残していかなければなりません。それが我々の使命であると考えています。

「町並みは、わたしが守る」これが全国町並みゼミ名古屋有松大会のスローガンでした。



南木曾町産業観光課 田 中 良 樹

11月17日～19日、愛知県名古屋市緑区で開催された「名古屋有松大会」に参加させていただきました。

有松では、昭和53年に「町並みはみんなのもの」をテーマとした全国町並みゼミ第1回大会が足助町と共同開催されました。それから40年の歳月を経て、今回の第40回という記念すべき大会が開催されました。この40年を振り返りつつ、今後の町並み保存のあり方や歴史を活かした地域の活性化等について、事例発表や討議が行われました。

有松は、慶長13年東海道の鳴海宿と池鯉鮒宿の間に尾張藩によって開かれました。東海道を往来する旅人の土産物として絞り染め（有松絞り）が考案され、以降、有松絞とともに町が発展しました。

私たちが参加した分科会では「これからの町並み保存～守る×活かす×育てる×創る×繋ぐ～」をテーマに、主に今後の町並み保存のあり方について考えました。

現在は、まちづくりの担い手の高齢化や賑わいや活気が乏しいといった課題があり、次の世代へ継承するには、若者が入るきっかけを作り、受け入れることが大事である等、様々な意見が出されました。

今回の町並みゼミに参加して、これからの町並み保存について改めて考えることが出来ました。ありがとうございました。



第12回新春狼煙あげ

中町 下 枝 正 敏

新春恒例の城山頂上における第12回狼煙あげに参加させていただきました。幸い快晴に恵まれ、青空の下少し風があつてなかなか真っ直ぐ上がらなかったのがちょっと残念でしたが、まあまあ状態。煙を発生させるための高野槇の葉を麓から運び上げるのは正月ボケの身体には少しきつく、息を切らせながらの持ち上げになりました。

今年は伝達方式とかで、馬籠峠の狼煙が見えたら城山もあげるとの事で、定刻の10時半に遥か彼方にそれが見え我々も発煙、青空と白煙のコントラストがとても綺麗に狼煙があがりました。

昨年、城山の木を一部伐採したそうで、馬籠峠、下り谷、大妻籠のみならず、三留野側も神戸、愛宕山と見ることができ、雪を頂いた真っ白な中央アルプスの山々の景観が背景となり素敵でした。

本来狼煙あげは、情報通信手段であった訳で、折角「木曽谷をつなぐ狼煙あげ」であれば、スタートからエンドまで木曽谷27か所で何かを伝達するアイデアは無いものでしょうか？より楽しいイベントにして観光客の皆さんにも喜んでもらえるようになればいいと思います。城山からは上記の各所が見え、狼煙あげらしいのですが、宿場内からは1か所くらいしか見えない現状では、ただ煙があがっているだけの感を免れません。面白さに欠けるように思います。是非良いアイデアを望みます。町長にもご参加いただきましたが、もっと大勢の方々が参加する面白いイベントになれば楽しいものに思われます。



上:城山城址
右:大妻籠



木祖村木曽川・水の始発駅 佐久間 賢太

木祖村では昨年同様3箇所で狼煙あげを行いました。

それぞれの場所から他の地区の狼煙を確認することはできませんでしたが、青い空と白い煙を見上げ、風に流される煙に一喜一憂し、火の暖かさを感じていたのはどの会場も一緒だったと思います。姿は見えなくても参加者全員が一体となったまさに「木曽はひとつ」を感じました。

最近では、生活の中で直接火を見る機会も少なくなっていますので、こういったみんなで火を囲む時間はとても貴重なものかもしれません。煙で目がしめたり、服に染み付く匂いにもどこか懐かしさを感じました。

普段当たり前に存在している火や風に感謝することを忘れずに生活したいものです。



〈数原三角土場〉



〈奈良井城跡〉



〈木曽町越立峠〉



〈大桑村殿〉

文化文政風俗絵巻之行列は今回で50回を数えることができました！

木曽地域振興局商工観光課 小林 清 二

毎年この行列には、木曽地域に勤務する長野県職員も参加させていただいております。木曽地域振興局では、増田隆志局長をはじめ12名で参加させていただきました。

また、今回は50回の節目ということもあり、阿部守一知事にもお声かけいただきました。江戸時代には180cmを超える背の高い宿場役人がいたかどうかは分かりませんが、知事の出演にあたり、県章を家紋にあしらった袴を新たにご用意いただきありがとうございました。

子どもとともに参加した職員は、子ども用の衣装を丁寧に着付けしていただき、また、山駕籠に乗ることもできて、たいへん喜んでいました。

行列の最後に行われた祝い餅投げでは、職員も童心に返り、競って餅を拾っていました。

この行列は、昭和43年から半世紀、毎年開催されて来られたのにはたいへんなご苦労があったと思います。妻籠宿には、欧米やオーストラリアなどから2万2千人を超える外国人観光客が訪れています。妻籠宿の人気の高いのは、江戸時代からの日本の景観、自然、雰囲気はここでしか味わえないことが、SNSなどの口コミで世界に広がっているためであり、それは徹底した集落保存活動の取り組みや風俗絵巻之行列のような活動が評価されてのことであると思います。

「妻籠を愛する会」や関係者の皆様には、この建物、自然、景観を守る志を、今後も貫いていただき、住民の生活や観光客のにぎわいが、次世代にも引き継がれていきますことを祈念しております。



妻籠愛友会 鈴木 竜 行

山々の紅葉も鮮やかな色合いを失いはじめ、次第に晩秋から初冬へとその姿を変え始めた11月23日、今年も文化文政風俗絵巻之行列が開催されました。

折りしも、週間天気予報では、前日から雨模様の様子、私たちは、前日から完全に雨を想定しての準備をしました。いっそ、雨は夜更け過ぎに雪へと変わってしまえば、それはそれで趣のある行列になるのかも、と思いながら当日を待つことにしました。

そしていよいよ当日の朝を迎え、窓の外を見ると、何ということでしょう、前日からの雨が完全に上がっているではありませんか。どうやら、雨は夜更け過ぎに曇りに変わっていたようです。花嫁さんが支度を終え、妻籠分館に到着した頃には、晩秋の穏やかな陽射しが降り注いできました。みんなで記念撮影を済ませいよいよ、合流場所の恋野集会所へ移動をします。余談ではありますが、花嫁が恋野に向かうなんて偶然だとはいえ、素敵な感じだと思いませんか。

ほどなくして、行列本隊が渡島グラウンドからやってきました。花嫁を馬に乗せる時間になりました。木曽馬をこんなに近くでながめるのはこの日だけなのですが、思っていたよりも大きな馬体とそのつぶらな瞳を見ていると、絶対的な安心感が生まれます。

花嫁を馬に乗せ、いよいよ出発です。行列はゆっくりと妻籠宿へと歩を進めていきます。当時の建築様式を、かたくなに守り続けている町並みを歩き、当時から受け継がれてきた着物や装飾品を身に纏う事で、連綿と続く歴史の重さを痛感します。果たして本当に当時はこのようにして旅をしていたのか、今となっては誰にも推し量る事はできないのですが、絶対に当時もこうして馬に揺られ穏やかな陽射しの元、ゆっくりとそしてのんびりと旅をしていたに違いないという想像が確信に変わった一日となりました。

次回もよろしくお願いします。





〈渡島グランド、さあ出発！〉



〈枡形を抜けて寺下へ〉



〈下町を行く〉



〈行列を先導する陣屋太鼓〉



〈茅ヶ崎の尺八部〉



〈大妻籠まであと少し〉



〈愛友会によるさいとろさし〉



〈大妻籠にて お疲れ様〉

今年も夜回り組始動

下町 磯村 琢 弥

冬の夜、妻籠宿の夜に「火の用心!」と声が響きわたります。今回から夜回り組に参加することになりました。資料をもらうまでは、数人の方が行っているものだと思っていましたが、思ったより大勢の方が参加していました。1月10日、初めての夜回り組です。あいにく雪降りの夜でしたが、息子も手伝ってくれるということで、少し早めに家を出ました。私が「火の用心!」と声を出し、息子の正宗が「カンカン」と拍子木を叩くといった形です。暫くして、それなりの距離を歩くことがわかり、息子が飽きるかもと心配でしたが、「楽しいねお父さん」と言ってもらい、元気に歩いてホッとしました。気持ちに余裕が出てくると、宿場の景色を見たり、怪しい人はいないか、水路は詰まってないか、見知らぬ猫はいないかと色々見回っていました。

さて、話は変わりますが、火事の原因は様々ですが、近年は昭和時代の扇風機が出火原因というものがあります。以前テレビ番組の実験でみたのですが、モーター辺りから火が出て、首がポロッと畳に落ちるものでした。妻籠で昭和時代の扇風機の家を見ることがあります。夏までこの話を覚えていた方は、是非とも扇風機をチェックしてみてください。

まだ天気の良い日に夜回りをやってないのですが、星の見える日や、満月の日にどんな宿場の景色が見られるのか、新たな発見もあるかもなどと、勝手に思っ盛り上がっています。拍子木がいい音で鳴るよう頑張っていきたいと思っています。それでは皆さん、火災のない妻籠でありますように「火の用心!」「カンカン!」



〈親子で回っています!〉

しめ縄講習会

広報部 松下 達也

妻籠分館文化部主催の恒例のしめ縄講習会が12月17日、妻籠分館ホールで開催されました。十数名が参加し、加藤幸治さんを講師に迎えて午後から2時間ほど、みっちりしめ縄作りに励みました。

毎年参加している方はすっかり慣れた手さばきで経験の浅い方に手ほどきしたりしながら、自宅で必要な分のしめ縄を作るのに精を出しておりました。作り方を他の参加者と教えあったり、世間話をしながら和やかな雰囲気、一年を振り返りながら過ごすのは、「今年も一年無事終われそう」と安堵感を感じるひとときのような気がします。

稲刈りも多くの家でコンバインになったことから、自家での稲ワラの確保も難しくなる昨今、毎年伊藤兼彦さんがワラを用意してくれており、この講習会に出て用意されたワラを使えることはありがたいことです。

自分もしめ縄を作ってみようかなと考えている方はもちろん、毎年自宅でしめ縄作りをされている方々も、次回、分館に来てみなさんと一緒に楽しくしめ縄作りを是非やりましょう!



宿 場 暦

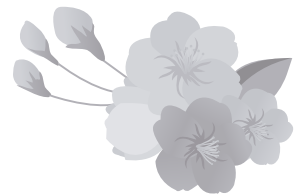
- 11月5日：テレビ朝日撮影（～10日まで）
 7日：着付練習、木曽観光地づくり戦略PJ会議（合庁・常務）
 12日：平成29年度第3回観光地点パラメータ調査
 13日：衣装部会（行列衣装準備）
 14日：行列幟旗立て
 16日：行列第2回実行委員会、観協役員会
 17日：第40回全国町並ゼミ有松大会（～19日、10名参加）、行列衣装運び出し
 20日：統制委員会、広報「妻籠宿」124号発行、行列木戸組立
 23日：第50回文化文政風俗絵巻之行列
 28日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（開田高原・常務）
 29日：地域づくりネットワーク木曽支部総会、元気づくり支援金事例発表会（常務）
- 12月2日：妻籠宿案内人の会世話人会・学習会
 4日：衣装部会（衣装整理）
 6日：行列反省会
 9日：観協役員会
 14日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（妻籠・常務）
 15日：テレビ朝日撮影
 16日：日本ナショナルトラスト全国大会（常務）
 18日：長野放送撮影
 19日：広報部会
 20日：統制委員会、平成30年度元気づくり支援金説明会（合庁・常務）
 21日：中京テレビ撮影
 25日：妻籠宿保存50周年企画委員会
 28日：案内所仕事納
- 1月 4日：新春放談会（17名）、狼煙あげ（27か所・290名）
 5日：夜回り開始（～3月2日）
 11日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（野尻・常務）
 15日：繭玉作り（観協女性部）、広域季刊誌プロジェクト会議（常務）
 17日：観協役員会、案内人の会新年会
 18日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（合庁・常務）
 19日：ガイドさんの井戸端会議（須原宿・6名参加）
 22日：統制委員会、県環境審議会傍聴（県庁・常務）
 23日：広報部会
 25日：妻籠宿保存50周年事業委員会
 26日：文化財防火デー（47名参加）



〈文化財防火デー 消火訓練〉

統制委員会審議事項

- 11月20日
 ・案内看板整備（町：城山入口） 1件
 ・町営第1駐車場待合所棟整備（町） 1件
 ・公衆トイレの取り壊し（町：馬籠峠） 1件
 ・土地の形質変更（橋場） 1件（保留）
 ・屋根棟瓦積み直し（橋場） 1件
 ・水中ポンプ仮設電源工事（田口土木：恋野・下町） 1件
- 12月20日
 ・群状択伐（関電：渡島・城山） 1件
 ・屋根堰板取替（尾又） 1件
 ・町有林支障木伐採（町：細野山） 1件
 ・配電線設備の保安伐採（中電：城山） 1件
 ・前月保留分 1件
- 1月22日
 ・配電線設備の保安伐採（中電：上在郷） 2件
 ・防護管取付（中電：中町生活道路） 1件
 ・石置き屋根修繕（大妻籠） 1件
 ・木製ガードレール交換（県：橋場） 1件
 ・木製看板の整備（町：尾又、橋場） 1件
 ・取付道路工・水路工建設工事（町：渡島久保洞） 1件



発行：公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

第8回ガイドさんの井戸端会議 ― 須原宿にて

妻籠宿案内人の会 野田 覚

ガイドさんの井戸端会議が8回目を迎え、平成30年1月19日大桑村須原地区館にて開催され、南木曾町から8名が出席しました。

開会に先立ち、昼前1時間は大桑村案内人の会のガイドさんにより、灯籠と水船が綺麗に整備された須原宿と、山門、本堂、庫裡が国指定重要文化財である定勝寺の説明を受けながらの散策を楽しみました。

昼食時は、須原ばねそ保存会の9人の方により、須原ばねそ(8月お盆)と須原長持ち行列(7月)の歌と踊りが、揃いの法被で披露され初めて見ました。

午後から木曾谷と中津川市の案内人の会10団体と観光関連部署等の人、計47名が参加して開会されました。

基調講演は、信州おもてなしマイスターの 小林雄輝氏による「接遇とおもてなし」。相手とのコミュニケーションの取り方。コミュニケーションはおもてなしである。コミュニケーションとは、相手を知る・自分を知って貰う・相手の求めている物を押さえる・相手の気持ちになる と言う趣旨の話をされました。そして、あの場所、あの物、あの人に、「あの」に自分達の地区名が誇れるような魅力を発信出来るようにと締めくくられた。

続いて、木曾地域文化遺産活性化事務局 小嶋忍氏から、日本遺産木曾ストーリーテラー育成事業について、木曾谷の街道、森林、歴史、衣食住の4本柱で、木曾マイスター制度等を検討し、地域全体を活性化させる説明がなされた。

最後に、ガイドについての意見交換会が4グループに分かれ、案内人の高齢化、後継者不足、勉強会によりレベルUP、情報の共有化、案内のテクニック等々・有意義な情報交換が行われた。

日本遺産の名を盾に、一同「あの案内の人」になるよう頑張ろうと散会しました。

*** 妻籠宿の案内人が足りません!! ***

話好きな方、歴史に興味ある方、是非入会を!

マイスター……………ドイツ語で、親方 名人
ストーリーテラー …… 英語で、物語の語り手・
話の上手な人



〈おもてなしマイスターの講演〉



〈須原ばねその歌と踊り〉



〈日本遺産ストーリーテラーの説明〉



〈須原宿散策〉

